

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 17	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 きゅうり品種の耐病性及び収量性の比較	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 施設きゅうりの栽培において、地上部に発生するうどんこ病、べと病、褐斑病は重要病害であり、主に薬剤による防除が実施されているが、近年、当病害に罹病しにくい耐病性品種が育成され、各メーカーから販売され、現場でも導入されつつある。 しかし、メーカーにより耐病性の強さや収量性が異なっており、生産者は品種の選択に苦慮している。そのため、各種地上部病害に対する耐病性や収量性について、品種特性を明らかにしてもらいたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	病害の品種間差異をあきらかにするためには、発生している菌種、レース等菌系を明らかにしたうえで試験を行う必要があります。平成10～11年に、キュウリうどんこ病菌と同種の菌で、宿主範囲を共有するメロンうどんこ病菌について、品種ごとの罹病性を明らかにするために、県内の病原菌のレース判別を行ったところ多くのレースが発生していることがわかりました。キュウリうどんこ病においても、現場では品種に対する感受性の異なる菌が混発していることが予想され、それぞれの系統の菌に対する感受性の品種間差異を調査することは、多大な労力が必要で、対応は困難です。べと病や褐斑病にも同様のことが予想されます。地域ごとの病原菌の実情にあった耐病性品種を選択するために、現場で、品種比較の普及展示ほ試験を複数箇所行うことを提案いたします。その場合、展示ほ試験等では、調査に協力させていただきます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			